

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ロングサポートLa・Nature		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5名定員という少人数の受け入れで、マンツーマンの体制がとれているため、個性を配慮し、きめ細やかな支援ができていいると思われる。	職員が常に見守る態勢を整え、チーム連携が十分に発揮できるよう、研修等を通じて職員の意識向上を図っている。個別活動は各自の特性をふまえたプログラムや生活の流れを配慮した時間帯での活動を行っている。	専門的支援プログラムを継続的に評価、実施し、さらに個別支援の内容を充実させ、個々の発達の上を目指していきたい。また、グループ活動においても、社会性の向上を図るためのプログラム等を充実させ、日々の活動の中に組み込んでいきたい。
2	看護師が複数常駐の為、様々な医療的ケアに対応できている。	医療的ケアについて、看護師だけでなく保育士等も情報共有したり、看護師も保育士等と共に児童の療育に参加している。	医療的ケアについては、引き続き、医療機関との情報共有や在宅でのケア内容についての情報収集に努め、通所時の医療的ケアが安全かつ適切に行えるようにしていく。
3	複数の療法士が在籍しており、個々の発達に応じた身体の取り組みについて、より専門的に支援ができる。	療法士指導の下、他の職種の職員も体の取り組みができていいる。療法士による研修を開催し、ポジショニングや姿勢保持の工夫などについて実践的な学びの場があることや職員への体への負担軽減を図る取り組みも行っている。また、療法士が考案した「わらべ歌体操」や「からんころん体操」といったオリジナルの体操も療育に取り入れている。	個別支援やグループ支援がより個々の発達向上につながるよう、引きつづき、職種間連携を強化していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関、特に医療機関との情報共有の機会が少ないため、連絡の取り方や情報共有の場の設定等、事業所として工夫していきたい。	関係機関との連携においては、情報の把握と職員の役割分担の明確化が不十分であると思われる。	個々の情報把握を十分に行い、会議等で共有し、役割分担を明確にして、誰が、いつ、どこで連絡をとり、情報共有していくのかを決めていく。
2	保育園等と比較すると、ご利用時間が短いことが理由で利用の安定化につながらないことがある。	医療的ケア児についても、保育園などの長時間の預かり保育があるところに移行する児童が増えてきているように思われる。	重心という特性上、時間を長くすることは難しいが、それ以外にお子さん一人一人への療育の意義や専門職によるきめ細やかな個別支援等の付加価値があることを伝えていきたい。
3	給食がない。	日々の食事に悩んでいる保護者が多くいる様に思われる。	今現在は給食を用意することは難しいが、普通食のお弁当をパースト食に加工することは行っている。今後配食なども検討していきたい。